

沖縄科学技術大学院大学開学に向けた緊急アピール

私たちは、科学技術の研究基盤の発展に向けて、これまで例のない大胆な発想で推進される沖縄科学技術大学院大学プロジェクトに強い関心を持ち、成功を期待しています。

大学院大学推進県民会議総会が開催されるこの機会に、この大学院大学に必須の条件について、科学者・研究者の立場から、日本の関係者に強く訴え、理解を求めます。

— 沖縄科学技術大学院大学は、日本と世界の科学技術発展、沖縄振興のため、極めて重要で意義深いプロジェクトです。

地域のクラスター形成は、大学をはじめとする研究教育機関を知之の拠点とし、これを核として、大学発のスピナウトや産業集積、それを支援する政府の政策の相乗効果で発展するモデルが国際的にも主流です。

世界経済が大きく低迷している今こそ、科学技術の発展と沖縄の未来のため、地理的・自然的環境に恵まれた沖縄への政府による大胆な投資を求めます。

— この大学院大学は、世界最高水準の教育研究を行う自然科学系研究大学院でなければなりません。

世界最高水準の研究大学院とするためには、学際的・融合的な先端分野の研究プロジェクトを大胆に展開することが可能な自由度の高い体制を整備しなければなりません。

これまで、ノーベル賞受賞者を始め世界的に著名な科学者から成る OIST 運営委員会で、いかなる大学を作るべきか議論がなされてきました。その結果、国際的な学術界から優れた科学者が学外理事として積極的に参画する理事会が方針を定め、自主的に運営し、その方針の下で組織経営と科学の両面に識見のある優れた学長が執行を行う仕組みが不可欠との結論が得られました。

市民の税金から高額の支援をいただく以上、その用途については、きちんとした説明責任を果たすべきですが、研究内容を含めた運営全般については、研究者の自主的な判断を尊重していただく必要があります。これを今の日本の大学制度の中で実現するためには、日本政府が学長を任命し、中期目標を示して運営させる国立大学ではなく、日本政府の万全の支援が法的に約束された「特別の学校法人」として設立されることが最もふさわしいものです。

－日本政府による財政支援については、万全の体制を整えていただきたいと思います。

世界各国の財政状況は極めて厳しく、日本もその例外ではありません。この大学院大学への日本政府の支援も、その財源が市民の税金であることを考えれば、一定の期間ごとに検証していくことは当然です。

しかし、世界最高水準を実現するためには、中期的な視野が必要であることもまた明らかです。大学院大学側でも、競争的研究資金などの外部資金獲得が可能な質の高い研究を行い、支援体制も充実することにより、自立的経営を目指す努力を続けるべきですが、政府による財政支援も、これまでの沖縄の特殊事情ゆえに講じられてきた各般の振興策と同様、例えば10年ごとに検証しつつ、中長期的に継続することを求めます。

もちろん、財政支援を優先するあまり、自主性・柔軟性に富んだ運営体制の在り方を根本から覆すことのないよう、十分に留意をお願いします。

－この大学院大学は、沖縄でこそ実現できると考えます。

沖縄は、東京、シンガポール、ソウル、上海、ジャカルタなど、アジアの主要な先進都市の中心に位置し、この大学院大学は、国内にとどまらず、広くアジアの科学技術の中心的な役割を果たす可能性を秘めた大学となり得ます。

また、沖縄の素晴らしい自然や気候は、海外から優れた人材を惹きつけるために必要な魅力的な研究環境を提供することが出来ます。

研究テーマも現在は生命システムを中心に行っていますが、沖縄の自然環境や地理条件に適した、工学を含む環境分野や海洋生物学の研究も視野に入れております。又この大学院で生み出す研究の成果はやがて新しい産業を生み出し、沖縄の経済の活性化にも役立つでしょう。

さらに、科学技術の国際的な研究拠点が沖縄に産まれるということは、それを核とした知的クラスターの形成を通じ、沖縄の自立的な発展の原動力となるだけの将来性を秘めています。

これまでも琉球大学との強力な協力体制を構築してきており、こうした地元の大学との強固な連携は、この大学院大学のみならず沖縄のアカデミア全体の水準を向上させ更に沖縄の初等中等高等教育全体を強化させる力となります。

－2012年度開学のため、速やかな体制確定を期待します。

この大学院大学の2012年度開学は、国際アカデミアと日本政府との信頼関係

の基本です。

開学までに残された時間は極めて短いものです。遅くとも 2010 年の春には、新学長予定者の下で、大学の体制やカリキュラム、規程類の細部の詰めを始めなければなりません。

学長選任は、新たに大学院大学を設立するには極めて重要であり、1年をかけて、オープンな手続の下で、目指す大学にふさわしい最良の人選を行うことが必要です。

設置形態も確定できない状況下では、学長候補者との折衝もできず、来年春までの選任は到底おぼつきません。是非、本年夏前の体制確定を期待します。

沖縄科学技術大学院大学の早期実現を目指す科学者グループ

有馬 朗人

ジェローム・フリードマン

ティモシー・ハント

井村 裕夫

金澤 一郎

小林 誠

黒川 清

李 遠哲

益川 敏英

野依 良治

マーティン・リース

尚 弘子

利根川 進

吉川 弘之

トーステン・ヴィーゼル